



Title	「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」から みるユース世代の地球規模課題への関心の高まりと SDGs実践のためのISOコミュニティ通訳認証の可能性
Author(s)	栗田, 佳典
Citation	ISOコミュニティ通訳認証実績報告書. 2022, p. 32- 59
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87472
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」からみる
ユース世代の地球規模課題への関心の高まりと
SDGs 実践のための ISO コミュニティ通訳認証の可能性

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会

栗田佳典

1. はじめに

2014 年、関西を中心とする NGO と学校教員による「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図～(以下、ワンフェスユース)」が開催された。グローバル課題を解決する若い世代の育成、市民社会組織の理解者の育成を目的に始まった同事業は、2015 年からは高校生が企画に参画するプログラムへと発展し、7 年間、高校生、NGO、学校教員、企業、そして大学生のサポーターとともに実施を続けてきた。

また 2015 年 9 月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が年々と認知度が上がり、高校生の地球規模課題への関心の高まりと具体的な行動が始まっている。

本稿では、SDGs を基盤とするワンフェスユースの開催報告と SDGs 実践のための ISO コミュニティ通訳認証の可能性について考察する。

2. 2021 年度ワンフェスユースの開催概要

第 8 回目となる 2021 年度のワンフェスユースは、前年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催した。2021 年度の目的、内容は以下の通りである。

《目的》

- 1) 将来、世界的な視野を持ち、地球市民として社会課題の解決に向けて行動する次世代の育成
- 2) SDGs 達成の重要なアクターであるユース世代と国際協力分野のネットワークの強化、連携の促進

3)「子どもの権利条約」の理解向上と子どもの権利を尊重した運営の実践

SDGs を定めた文書『我々の世界を変革する持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』の冒頭、パラグラフ 8 には、SDGs がめざす世界は、「子供たちに投資し、すべての子どもが暴力及び搾取から解放される世界」とされており、持続可能な社会の実現のためには、子どもたちが世界や地域の現状を主体的に学び、行動することが重要だと考え、今年度より 3) を追加した。

《内容》

高校生実行委員会を組織し、9月より当日プログラムの全体構成について話し合い、「私たちが描く持続可能な社会の未来図」をコンセプトとしたプログラムの企画、立案、調整、実施を行った。世界の現状について、同世代に伝えるだけでなく、いかに他人事ではなく自分に関わる事柄として次の行動につなげる問いを立てることができるかを考え、開会式、閉会式及び「アフガニスタンの現状を共に学ぼう」「コロナを逆手に SDGs を広めよう！」「海洋汚染と技術革新の繋がりを知ろう！」「持続可能な未来のために～環境と教育の視点から～」計 6 つのプログラムを実施した。

また、高校生実行委員会による企画だけでなく、高校生・大学生などユースチームが学校や国際協力スタッフと連携し、ワークショップの企画やフィールドスタディなど学習した成果について報告会を行った。「ユースアクション報告会」「京都市立高校生による MY ACTION! 行動にうつす SDGs 報告会」「アジアの高校生が集う国際会議！」「ユネスコ協会 SDGs パスポート体験発表会」「高校生とワークショップで考える難民問題」「高校生のための国際協力アクションプラン 2021 発表会」計 6 つのプログラムでは、高校生などユース世代によるディスカッションや質疑応答が行われ、他の高校やユースチームに所属するユース世代が繋がる場となった。

その他、外務省 NGO 相談員相談ブースとプレイベントとして教員対象の国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会も実施した。

2. 2021 年度ワンフェスユースの成果と考察

2021 年度は、14 に上るプログラムを実施し、来場者は延べ 900 名（プログラム参加者総数）、当日高校生レポーターボランティア約 120 名、参加高校 25 校、参加 NGO17 団体、

21 企業等が参加した。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、2 年間オンライン開催を続けているが、クイズ形式でオンライン参加者も積極的に参加できるプログラムなどユース世代ならではの発想や創意工夫により、活動を継続し発展させることができた。さらに本イベントにおいて取り組んだテーマのひとつひとつに SDGs が深く関連しており、各企画・発表の中での紹介や、ウェブサイトには SDGs についてのクイズを作り、至る所に SDGs を意識する配信となった。さらに今年度のプログラムは SDGs を知るだけでなく、具体的な行動を考える内容も多く、SDGs を「知る」から「実践する」に変化していることを感じた。また、高校生同士がそれぞれの実践報告を聞くことで、刺激になり、それぞれの取り組みからさらなる工夫・発展へとつながった。

これまでの事業の統計として、ワンフェスユース参加者累計（2014 年～2021 年度）は延べ 3 万 2000 名に上り、高校生実行委員に参加し、企画運営に深く関わった高校の生徒大数（2015 年～2021 年度）は延べ 174 名となった。多くの高校生世代への機会をつくることができた。目的に沿った本事業の成果は以下の通りである。

(1) 将来、世界的な視野を持ち、地球市民として社会課題の解決に向けて行動する次世代の育成

SDGs を切り口に地球規模課題の学びを深め、自分なりの行動を起こすきっかけをつくるためのプログラム作りを心掛け、高校生実行委員の興味関心を深めた結果、アフガニスタン情勢や海洋汚染などのテーマでプログラムの設定ができた。

高校生のうちから提言活動を経験することで、国内における国際協力分野の普及啓発活動を促進し、多くの市民が参加する普及啓発・提言活動の重要度を高めることを目的に、「高校生実行委員会ユース提言セッション」を組織。2021 年度は「貧困による開発途上国の教育課題」と「海洋プラスチックによる環境問題」に関する社会運動家や専門家を交えたオンラインシンポジウムを開催、その後、具体的な提言をまとめ、発表を行った。

また、今後の新たな事業展開には、若年層の新鮮な感性や豊かな発想が必要と考え、世代刷新と多様性を重視した 10 代から 30 代の運営委員の積極的な登用を行い、彼らに運営を担わせたことも変化だと感じている。

(2) SDGs 達成の重要なアクターであるユース世代と国際協力分野のネットワークの強化、連携の促進

プレイベント「国際協力スタッフと先生のための交流会」を実施。オンライン開催と

することで地域を越えた国際理解教育や SDGs 探究学習の導入に熱心な関係者と NGO/NPO, JICA 等, 国際的に SDGs を推進するセクターとの新たなネットワーク連携を獲得した。また, 参加した教員の紹介で所属校の生徒がワンフェスユースに参加した。

高校生実行委員会を経験したメンバーから構成されるワンフェスユース OV (Old volunteer) 会が 2019 年に発足。高校生実行委員会が企画運営を行う際の助言を行う体制が継続することで, ユース世代による事業運営体制が強化され, 継続して国際協力を推進する重要なアクターとなった。

高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラムでは, オンラインを活用して, 発表に向けた複数回のブラッシュアップの機会を提供した。高校生と国際協力や開発教育, 市民活動の実務者との接点を増やすことができ, 高校生や学校関係者の満足度は高い。また, 国際協力アクションプランコンペティション大会のグランプリに輝いた高校生チームと関西の NGO による協力事例が生まれるなど, 若い世代の市民と国際協力関係者との出会いや繋がりを生み, 実際に協力するプロジェクト案件が形成された。

(3) 子どもの権利条約の理解向上と子どもの権利を尊重した運営の実践

子どもの権利条約の理解向上を目的に, 子どもの権利条約普及啓発キャンペーンとして事業実施に必要な資金を集めるためのクラウドファンディングを実施。11月20日「世界子どもの日」と12月10日「世界人権デー」に向け広報を展開し, 結果として130名を超える賛同と, 107万円を超える寄付による協力を得ることにつながった。また, 子どもの権利を尊重した運営を実践するべく, ユース世代の運営への参画や企画時における意思決定の尊重に努め, 子どもの権利条約の理解向上と子どもの権利を尊重した運営の実践について前進させることができた。

また, 事業実施前と事業実施後に実施した, 高校生実行委員会18名を対象としたアンケートでは, 子どもの権利の認知度は「81%」から「100%」となり, 子どもの権利の内容理解は「50%」から「87%」と質的に向上した。また, 「自分で国や社会を変えることができるか」という設問に対しては, できると回答した高校生が「56%」から「75%」に向上した。なお, 中心となって取り組んだ高校生からは「できることはない」という先入観こそ捨てるべきではないか, 今回, 自らが動くことから共感の輪が広がる実感が持てた」という感想があったことも印象深い。

4. ワンフェスユースを通して感じるコミュニティ通訳の必要性について

2019年12月15日(日)大阪YMCA(大阪市西区土佐堀1-5-6)で開催された、ワンフェスユース2019では、「言語の壁を越える能力って何?」と題し、言語の壁を越えるため Contextual Sensitivity(文脈を汲み取る感受性)を「見える化」するための適正テストのサンプル・デモを日本語・英語で行い、自らの母語に対する理解力について改めて考える機会を実施し、26名が参加した。林田雅至氏監修の下、実施団体:公益財団法人大阪公衆衛生協会、協力ワンフェスユース2019運営委員会で実施した同企画は、学習外国語から母語へ、母語から学習外国語への翻訳・通訳する「双方向運用能力」をバランスよく身に付けることの大切さを考える機会になった。同時時間帯に運営に関わる別のプログラムがあり、参加がどうしてもできなかったと残念がる声も多く聞き、その関心の高さを感じた。私は同企画でコミュニティ通訳のこと、ISOコミュニティ通訳認証のことを初めて知り、自治体や医療機関だけでなく、教育現場や地域社会でのコミュニティ通訳の必要性も学ぶことができた。

その後も、多文化共生や教育機会の平等、地域の防災について探求する高校生グループの発表を聞く中でも、コミュニティ通訳の必要性を問う高校生、発表が増加した。それは持続可能な開発のための2030アジェンダにも記載された「誰ひとり取り残さない」のメッセージの影響も大きいと私は考える。

また、2021年度の国際協力アクションプラン応援プログラムでは、JSL(Japanese as a second language)児童に対する教育支援について提案するグループもあった。同グループの発表は、日本でも急速にグローバル化が進む中、その多様性を認め受け入れる市民の意識が追いついていない現実があり、一人ひとりの個性を認め、全員が平等に成長する機会を与えられることの重要性を発信するため、JSL児童の母語よるスピーチ会「せかいこどもフェス」の開催を企画したいというものであった。

日本で働く在住外国人や外国にルーツを持つ子どもたちの存在がより身近になっていることで、いま、地域社会での多文化共生意識の高まりと地域での言語の壁を越えたコミュニケーションの重要性、必要性を感じている。

5. SDGs 実践時代における ISO コミュニティ通訳認証の可能性

ワンフェスユースでの高校生たちとの関わりを通じて、SDGsを知る時代から、理解を深

め、行動する時代へと移行したと私は考える。実際に、ワンフェスユースでは、高校生のための「学びの機会」の提供から、高校生が「課題解決のために探究や実践をする機会」の提供を目的とした企画が増加し、高校生同士が普及啓発活動や提言活動、課題発見や課題解決のために繋がる場へと大きく変貌し、たゆまぬ成長を続けている。

誰ひとり取り残さないというメッセージが込められた SDGs の実践時代において、コミュニティ通訳は、在住外国人や外国にルーツを持つ子どもたちなどが公平で安心して日本で過ごすために必要不可欠な存在だと私は考える。そして、その担い手が誰かを示すため、国際規格『ISO13611:2014 Interpreting – Guidelines for community interpreting (通訳-コミュニティ通訳のためのガイドライン)』に適合する通訳サービス提供者に認証が授与される仕組みはとても重要である。ワンフェスユースの企画構成に深く関わった高校生実行委員会や参加した高校生たちが、次の進路においても学習を続け、ISO コミュニティ通訳認証の受検を通して、さらなる SDGs 実践者（誰ひとり取り残さない社会を形成するための担い手）になることを私は強く望む。そうしたワンフェスユースを起点とした SDGs 実践を通して、地域社会を支えるユースの育成に今後も尽力したい。

また、ワンフェスユースのイベント自体、これまで日本語のみの開催となっているが、今後イベントを、誰を対象にどのように開催するのか検討が必要だと考える。ワンフェスユースも「誰ひとり取り残さない」を常に意識し、時代、環境に合わせて、進化をし続けたい。

謝辞

大阪大学名誉教授・林田雅至氏には、ワンフェスユース発足当初より市民社会組織、教育関係者、そして高校生を繋ぐ役割を担っていただいただけでなく、2021 年度は相談役として運営において多くの助言やサポートを通して、ワンフェスユースの事業継続・発展に多大なる御力添えをいただいた。さらに本稿の機会もいただき、より多くの方にワンフェスユースを知る絶好の機会を設けてくださった林田雅至氏に厚く御礼申し上げます。

《参考資料》

- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021 Online 事業実施報告
- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021 Online レポート(現物：2つ折り両面印刷体裁)
- ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ <https://owf-youth.com/2021>

《略歴》

栗田佳典

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会 事務局次長

1986 年、静岡県生まれ。立命館大学産業社会学部卒。大学在学中に子ども兵の問題に強い関心を持ち、2009 年 4 月、テラ・ルネッサンスに入職。海外の情報や現地での出逢い、そして自身の心臓病の経験をもとにした命や人権、平和に関する講演を 497 回、述べ 5 万人以上を対象に実施。自身の経験をもとに、関西の市民活動をさらに促進させるため、2021 年 12 月よりテラ・ルネッサンスから関西 NGO 協議会に転籍出向。2021 年 12 月以降は特定非営利活動法人関西 NGO 協議会職員として働いている。2020、2021 年度、国際協力・SDGs 普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図～」の運営委員長を務めた。

(投稿日：2022 年 2 月 9 日)

(受理日：2022 年 2 月 16 日)

「私たちが描く持続可能な社会の未来図」とSDGs

なぜ、ユースなの？

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(持続可能な開発目標 SDGs) が 2015 年 9 月、国連において全会一致で採択されました。2030 年、私たちの住む地域、社会、そして世界はどのようになってほしいと思いますか？ 貧困や差別がない社会、戦争のない世界、環境にやさしい社会、防災減災に取り組むまちづくり、ジェンダーの平等、質の高い教育、そして、誰もが自分らしく幸せに暮らせる社会。私たち若い世代は、地球に暮らす一員として、その未来図を描き、その実現に向けて行動します。



ワンフェスユースの思い

これからの社会を描いていくユースが、国際協力やSDGsについて考え、話し合い、その思いを発信していきます。高校生などユース世代が主体となってつくり上げるワンフェスユースは、ユース同士が互いを高め合い、尊重し合うことができる場です。そこに、国際協力 NGO やワンフェスユース運営委員、ワンフェスユース O V 会、協力団体や企業の応援、そして市民の方々からの共感や賛同の気持ちが合わさり、大きな輪が広がります。

ワンフェスユース 2021 活動紹介



● 特設会場ホームページのデザイン

高校生実行委員会のイベント運営セクションの高校生が、ワンフェスユースが行われるオンライン特設会場のホームページをデザインから考え、作成しました。ワンフェスユースを紹介するグラフィックレコーディングやバーチャル背景も高校生が作成しました。

● 高校生のための

国際協力アクションプラン応援プログラム

国際協力や SDGs 達成を目指しアクションを起こす高校生チームを応援します。11月にコメンテーターにフィードバックを受ける「ブラッシュアップのための発表会」を経て、12月には実際に活動を行うチームを決める「コンペティション大会」を経て、ワンフェスユース 2021 当日にはファイナリスト全チームが発表を行いました。



海のため、環境のために、
わたしたちができることは。



● 国際協力や

海洋汚染についてのプログラム

高校生実行委員会のプログラム実施セクションの高校生がアフガニスタンの教育や世界の海洋汚染に関するプログラムを企画、運営、実施しました。講師の方をお招きし、参加者と共に学びました。



● ユースからの提言

高校生実行委員会のユース提言セクションの高校生が、貧困と教育、環境という観点から世界を捉え、講師の方をお招きし、参加者と共に深い議論を行いました。閉会式では、同世代がユースアクションを起こす意義を提言しました！ワンフェスユース活動として、今後も提言を行っていきます。

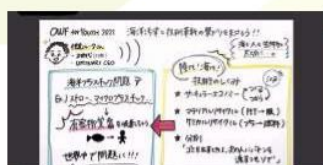


● ユースアクション報告会

高校生たちが学校で実施した国際協力・フィールドスタディ・プロジェクトラーニングでの学習内容とその成果について共有しました。

● グラフィックレコーディング

各プログラムでの気づきや印象に残った言葉をまとめ、イラストや文字で記録する高校生グラフィックレコーダーたちがフェスティバルの学びを共有し、振り返りをしました！



高校生実行委員会

ワンフェスユースをつくる高校生たち

ワンフェスユースは、一人の高校生の発意とそれに賛同した高校生たちによって生まれたユースの取り組みです。

2021 年度は去年に続き、オンライン開催の可能性を模索しながらの活動となりました。

プログラム実施セッション（プロセク）

プログラム実施セッションでは、実際のイベントのプログラムの構成を行います。新型コロナウイルス感染症によってより一層身近になった「海外の課題」、コロナ禍を経た今だからこそ見つめ直せる「当たり前を変える力」、「技術革新の裏にある海洋汚染」を3つのテーマを軸に国際課題について考えました。

プログラム実施セッション委員：

浅田結音（高校1年） 久戸いつみ（高校1年）
南部里緒菜（高校3年） 橋本真菜（高校2年）
藤本恵梨奈（高校3年） 星野 菜月（高校2年）
森山 優星（高校3年）

高校生実行委員会プログラム実施セッション 森山優星

今年度のワンフェスユースは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2 年連続で全日オンラインで開催されました。高校生実行委員同士でも感染拡大を防ぐため、オンライン会議になったので実際に会えない環境下で企画準備や講師依頼をしていかなければならず、なかなか思い通りにいかない部分も沢山ありました。期待と不安を胸に当日を迎えましたが、蓋を開けてみればそれぞれがしっかりと与えられた役割を実行し、全員で連携のと

れたイベントにすることができたと思います。このイベントの成功には活動を支えてくださった皆様、クラウドファンディングなど様々な形で協力してくださった方々の力が本当に大きかったと思います。今回のイベントを通してたくさんのことを学びました。これからも今回学んだことを活かして、様々な舞台でチャレンジしていきたいです。本当にありがとうございました。

イベント運営セッション（イベセク）

私たちイベント運営セッションでは、Web デザインの考案や広報、クラウドファンディングなどを主にワンフェスを盛り上げられるように活動しました。ぜひ、私たちが作った Web 特設会場をご覧ください。

イベント運営セッション委員：

河地彩那（高校2年） 短田美紘（高校1年）
千原涼雅（高校2年） 中谷優仁（高校1年）
萩田和（高校1年） 松本夕生子（高校2年）

高校生実行委員会イベント運営セッション 中谷優仁

昨年の 12 月に無事ワンフェスユース 2021 Online が終了しました！様々なトラブルが起こると想定していましたが、何事もなく開催することが出来ました。私たちイベント運営セッションは主にホームページの Web デザインの考案や Twitter・Instagram での広報、当日の zoom の運営を行いました。

した。このイベントが行えたのは沢山の参加者・寄付をして頂いた皆さんのおかげです。ありがとうございました！この活動を通して学んだことはとても多く、濃い内容でもありました。この体験を日々の学校生活にも活かしていきます！

ユース提言セッション（アドセク）

私たちユース提言セッションは、日本や世界が抱えている様々な課題の解決のため、同世代である高校生に向けた提言活動を行うチームです。ワンフェスユースの場で、ユースシンポジウムの開催に向けて、2030 年、2050 年を見据え、これからの時代を切り拓くために必要な指針を提案するための提言書を策定し、その内容を発表しました。「海洋プラスチックによる環境問題」と「貧困による開発途上国の教育課題」の2つのトピックを扱い、関係各所へ提言した内容を報告しました。

ユース提言セッション委員：

岸本夏奈（高校3年） 中島優梨子（高校3年）
保田竜（高校1年） 宮迫 怜菜（高校1年）
湯浅妃奈乃（高校2年）

高校生実行委員会ユース提言セッション 宮迫怜菜

今年度も昨年度と同様にオンラインにてワンフェスユースが開催されました。ユース提言セッションでの活動では、提言をする相手にどのようにしたら興味をもていただくことができ、私たちの思いがうまく伝わるのかを創意工夫してきました。また、オンライン開催という状況を逆手に取り、対面ではできない遠くにお住まいの方にワンフェスユース当日の

シンポジウムに登壇していただくことができました。ユース提言セッションでの経験から私は、今だからできる事を考えアクションを起こす事の大切さを学びました。当日まで、様々な形で皆様からのご支援があったからこそワンフェスユースが無事終了いたしました。本当にありがとうございました。

子どもの権利条約とSDGs

日本社会での子どもの権利条約の認知度は、まだまだ低いとされています。

SDGs を定めた文書『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』の冒頭、パラグラフ8には、SDGs がめざす世界は、「子供たちに投資し、すべての子どもが暴力及び搾取から解放される世界」とされており、持続可能な社会の実現のためには、子どもたちが世界や地域の現状を主体的に学び、行動することが重要だと考えられます。

子どもの権利条約の普及啓発キャンペーン活動を通して、「もっと多くの方に子どもの権利条約を理解してもらいたい。」「日本

だけでなく他の国や地域の子どもの権利についての理解を促したい。」「子どもの権利条約に関心のある高校生など若い世代の仲間が集まる機会をつくりたい。」「このイベントをきっかけに、子どもの権利や自由・公正について訴えなくても、当たり前のよう、あらゆる世代の人々がそれを尊重する社会をつくりたい。」という思いへの賛同を募りました。

高校生などユース世代が主体となって取り組むイベント、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth では、SDGs を宣言するだけではなく、実践し、達成に向けて活動を続けます。

ワンフェスユース 2021 開催概要

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021

「わたしたちが描く持続可能な社会の未来図」

開催日	2021年12月19日(日) 9:40～16:00
開催場所	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ特設会場

当日参加者数

2021年は高校生を中心に延べ900人の参加者を迎え、
2014年からの累計は、延べ32,100人を超えます！



- 主催** ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会
- 協力** 公益財団法人大阪 YMCA、一般社団法人ソーシャルギルド、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth OV 会
- 後援** 外務省、文部科学省、独立行政法人国際協力機構 関西センター（JICA 関西）、大阪府教育委員会、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、公益財団法人大阪府国際交流財団、認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）、朝日新聞社、関西 SDGs プラットフォーム
- 協賛** 近畿労働金庫、真如苑、リタワークス株式会社、日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）、株式会社オルタナティブツアー、「ステハジ」プロジェクト株式会社 OSG コーポレーション



- 助成** 外務省 NGO 事業補助金事業、阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト助成事業、公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）、独立行政法人環境再生保全機構（※ユース提言セクション）、一般財団法人日本国際協力システム

- 寄付** 近畿ろうきん・社会貢献預金(笑顔プラス)寄付金



2022の募集情報を
チェック!

お問い合わせ先

(特活) 関西 NGO 協議会 / ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 事務局

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30 4 階

TEL : 06-6377-5144 / FAX : 06-6377-5148 Email : youth_expo@kansaingo.net

[open hour] (火～金) 13:00 - 18:00 ※土・日・月・祝休み

ワンフェスユース2022の開催については、
ウェブサイトをご覧ください！



ワンフェスユース公式サイト
へ直接アクセスできます

事業実施報告

高校生による

ONE WORLD
FESTIVAL
for Youth
2021 online

わたしたちが描く
持続可能な社会の未来図

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021
～わたしたちが描く持続可能な社会の未来図～

開催日：2021. 12. 19

事業の目的

- 1) 将来、世界的な視野を持ち、地球市民として社会課題の解決に向けて行動する次世代の育成
- 2) SDGs 達成の重要なアクターであるユース世代と国際協力分野のネットワークの強化、連携の促進
- 3) 「子どもの権利条約」の理解向上と子どもの権利を尊重した運営の実践

国際協力・SDGs 普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth（以下、ワンフェスユース）」は、中学生や高校生という早い時期から世界的な視野で社会の課題を知り、分析する力を育て、本分野への理解と参加を促すことで、より質の高い国際協力活動に貢献します。本事業では、高校生など若い世代を中心とした発表の機会をつくり、国際協力や SDGs の推進に関わる様々なセクターの関係者と若い世代同士を繋げ、意見交換・情報交換する場を提供します。

そして、本イベントを通して、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利で構成された「子どもの権利条約」をあらゆる世代に広め、その権利が尊重されることを目指し、若い世代をエンパワーメントします。

事業の背景

2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）を達成するために、高校生など若い世代はとても重要な存在です。ワンフェスユースは、若者が主体となり、貧困、紛争、人権、格差、ジェンダー、環境などの社会課題を自分たちの問題として捉え、どうすれば解決することができるか、同世代と一緒に考え、行動する場です。2030 年までの国際社会共通の目標である SDGs、この目標を達成するために、若者があらゆる世代、セクターの人達と一緒に一歩を踏み出します。2 年間続くパンデミックで、地域や世界における様々な課題が浮き彫りになりました。今こそ世界が国際的な協力関係を築き、この課題を乗り越える必要があります。

パンデミック後の世界には、自ら問いを立て、課題を解決し、持続可能な社会の実現に資する人材の育成が必要だと考えられます。ワンフェスユースでは、特に、開発途上国の SDGs 達成状況や現状に関心を持ち、2030 年以降のポスト SDGs を描き、日本や世界の国や地域で活動する人材の育成を視野に入れた活動をしています。

そのため、本事業は学習や知識修得のみではなく、高校生など若い世代の市民活動への参加を促しています。国際協力や多文化共生に携わる多様なセクター（外務省、JICA、企業、教育機関、NGO）が横断的に繋がることで共に課題の解決に取り組む若い世代を育みます。

事業の成果

本年度は、延べ 900 名が参加（各プログラム参加者総数）、高校生など約 100 名の運営ボランティアとして活動しました。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2 年間オンライン開催を続けていますが、高校生たちユース世代ならではの発想や創意工夫により活動を継続し、発展させることができました。特に、子どもの権利条約普及啓発キャンペーンでは、11 月 20 日「世界子どもの日」と 12 月 10 日「世界人権デー」に向け活動を行いました。その結果、130 名を超えるご賛同と、107 万円を超えるご寄付を募ることができました。本事業の目的のひとつである「子どもの権利条約」の理解向上と子どもの権利を尊重について前進させることができました。

した。ワンフェスユース高校生実行委員会のイベント後のふりかえりでは、自らの成長だけでなくユースがアクションすることの社会的な意義や、継続的な市民活動への参加について話し合われました。本事業は、高校生実行委員会が、①企画、②立案、③調整、④実施、⑤ふりかえりの全てのプロセスに携わることにあります。そこに、国際協力 NGO や SDGs を推進する団体の専門性が合わさることで相乗効果が生まれます。高校生などユース世代が、国際協力や多文化共生の課題に取り組み、SDGs 達成に向け、国際協力・SDGs 普及啓発や提言活動をすることで、多くの賛同や共感の声を集めることができました。

ワンフェスユース参加者累計（2014 年～2021 年度）

延べ **3 万 2000 名**以上

高校生実行委員に参加し、企画運営に深く関わった高校の人数

（2015 年～2021 年度）延べ **174 名**



開催概要

名 称	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021
サブタイトル	～私たちが描く持続可能な社会の未来図～
開 催 日	2021 年 12 月 19 日 日曜日 (9 : 40～16 : 00)
開催場所	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 公式ホームページ内特設会場 (https://owf-youth.com/2021/index.html)
主催	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会 特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会
協力	公益財団法人大阪 YMCA 一般社団法人ソーシャルギルド ワンフェスユースO V会 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会
後援	外務省、文部科学省、独立行政法人国際協力機構 関西センター(JICA 関西)、大阪府教育委員会、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター、公益財団法人大阪府国際交流財団、認定 NPO 法人開発教育協会 (DEAR)、朝日新聞社、関西 SDGs プラットフォーム
協賛	近畿労働金庫、真如苑、リタワークス株式会社 日本労働組合総連合会大阪府連合会 (連合大阪)、株式会社オルタナティブツアー「ステハジ」プロジェクト 株式会社 OSG コーポレーション
補助金・助成金	外務省 NGO 事業補助金事業 阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト助成事業 公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市) 独立行政法人環境再生保全機構 (※ユース提言セクション) 一般財団法人日本国際協力システム
指定寄付	近畿ろうきん・社会貢献預金 (笑顔プラス) 寄付金
当日参加者	延べ 900 名 (各プログラム参加者総数)
当日ボランティア	約 120 名 (オンライン運営ボランティア、高校生レポーター、グラフィックレコーダーを含む)
プログラム数	14 プログラム
参加団体数	高等学校・高校生団体 25 校、NGO/CSO17 団体 企業・大学・国際機関ほか 21 社・団体
運営事務局	特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30 4 階 TEL 06-6377-5144 FAX06-6377-5148 MAIL youth_expo@kansaingo.net URL https://owf-youth.com

高校生実行委員会

2021 年度は、関西地域を中心に全国の高等学校より高校生実行委員への応募があり、選考を経て、計 18 名が、企画立案の要である「プログラム実施セクション」とイベント運営の要である「イベント運営セクション」、ユースが声を集め、提言する「ユース提言セクション」に分かれ活動しました。9 月から対面とオンラインを併用したハイブリッド会議を重ね、全体コンセプトの決定やプログラムの企画立案、特設 WEB 会場の制作に関わる調整、オンラインボランティアの受入、提言のための調査やシンポジウムの準備、子どもの権利条約普及啓発キャンペーン活動を実施し、当日の運営を行いました。3 つのセクションが、定期的に合同会議を行うことで、それぞれの活動がワンフェスユースの活動のどの部分を支えるのか、それぞれの役割について相互理解を深めました。

プログラム実施セクション

プログラム実施セクションは、9 月より当日プログラムの全体構成について話し合い、「私たちが描く持続可能な社会の未来図」をコンセプトとしたプログラムの①企画、②立案、③調整、④実施を行いました。世界の現状について、同世代に伝えるだけでなく、いかに、自分事として次の行動につなげる問いを立てることができるか工夫を凝らし、5 つのプログラムを実施しました。



開会式

オンライン Zoom 会場 <9:40-10:20>

【参加人数】207 名

【内容】SDGs への理解がより深まるプログラム

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション

【協力】高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

アフガニスタンの現状を共に学ぼう

オンライン Zoom 会場 <10:40-11:50>

【参加人数】39 名

【講師】西谷文和さん（フリージャーナリスト）

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション

【協力】高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

コロナを逆に SDGs を広めよう！

オンライン Zoom 会場 <10:40-11:50>

【参加人数】41 名

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション

【ファシリテーター】高校生実行委員会イベント運営セクション

【協力】高校生高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

海洋汚染と技術革新の繋がりを知ろう！

オンライン Zoom 会場 <13:20-14:40>

【参加人数】28 名

【講師】伊達ルークさん（NPO 法人 UMINARI 代表）

【協力】高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション

閉会式

オンライン Zoom 会場 <14:50-15:50>

【参加人数】203 名

【協力】高校生オンライングラフィックレコーダーチーム

【企画】高校生実行委員会プログラム実施セクション

高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラム

コンペティション大会表彰式

【登壇発表】Colors（神戸市立葺合高等学校）

ユース提言発表

【登壇発表】高校生実行委員会ユース提言セクション

イベント運営セクション

イベント運営セクションは、9月より招集し、WEBサイト訪問者が円滑にプログラムに参加できる導線を意識し、オンライン特設会場を設置しました。WEB制作会社とともに打ち合わせを重ね、11月に特設会場をオープンしました。本年度は子どもの権利条約普及啓発キャンペーンを行ったため、SNSでの計画的な広報活動やクラウドファンディングの返礼品のとりまとめなど、イベントの準備や広報、当日の運営および事後の対応を行いました。ワンフェスユース当日は各プログラムのサポートし、安定した当日運営の実現に尽力しました。



ユース提言セクション

ユース提言セクションは、9月からミーティングを重ね、「海洋プラスチックによる環境問題」と「貧困による開発途上国の教育課題」に関する提言シンポジウムを開催しました。グローバルな視点で提言活動に取り組むなかで、日本を含む先進諸国の暮らしは、開発途上国から受ける恩恵に支えられている構造に気づきました。だからこそ、多くの市民が自分事として提言活動に関わることができることを伝えるためにシンポジウムを実施しました。



ワンフェスユース OV 会

ワンフェスユース OV 会は、2019 年度より、高校生実行委員を経験したワンフェスユースの卒業生が、ワンフェスユース OV 会（Old Volunteer）として現役の高校生実行委員たちをサポートする活動をしています。また、2020 年度からは、ワンフェスユース運営委員として運営委員会に参加し、ユース世代の意見を反映させました。さらに、高校生実行委員会の選考や高校生実行委員会の運営を力強くサポートしました。このように、継続的な活動により、自らの経験を活かし、若い世代と一緒に活動するサポート制度ができました。ワンフェスユースに継続的に関わることで、国際協力活動や開発教育、そして、市民活動への理解が深まり、主体的に活動する若い市民活動の担い手が育つ環境につながっています。





年間の動き



プログラム実施セクション

2021 年度高校生実行委員の招集
7 月募集開始、選考、決定
9 月 5 日第 1 回実行委員会
【3 セクション合同ガイダンス、チームビルディング、ミッションの確認】

9 月 19 日 第 2 回プログラム実施セクション
【メインフォーカルの決定、各プログラムテーマの決定、子どもの権利条約普及啓発キャンペーン担当者の決定】

【3 セクション合同会議】10 月 3 日、10 月 31 日

10 月 3 日 第 3 回プログラム実施セクション
【各プログラム企画書の作成、プログラム講師との依頼】
17 日～31 日第 4 回～6 回(随時オンライン開催)
【企画講師との依頼調整、企画の調整、クラウドファンディングの実施準備など】

7～8 月

9 月

10 月

ユース提言セクション

9 月 12 日関心のあるテーマについて
意見交換、個別で調べた結果の共有、提言テーマの決定、役割の分担

10 月 3 日提言テーマ「環境」と「教育」の調査
4 日～31 日(随時)
調査活動の共有・提案、提言先の協議

イベント運営セクション

9 月 25 日 オンライン特設会場会社との打ち合わせ【全体コンセプトの確認、オンライン特設会場の提案及び設計案】
29 日第 2 回イベント運営セクション
【オンライン特設会場の設計、掲載コンテンツの確認、ワンフェスユース解説漫画の制作】

10 月 3 日 第 3 回イベント運営セクション
【オンライン特設会場制作会社への最終提案】
3 日～31 日(随時)
【WEB 制作会社との打ち合わせ調整、Web 案の提出、高校生レポーターボランティア募集計画、企画広報の開始、クラウドファンディングの準備】

高校生実行委員からのメッセージ

今年度のワンフェスユースは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2 年連続全日オンラインで開催されました。高校生実行委員同士でも感染拡大を防ぐため、オンライン会議になったので実際に会えない環境下で企画準備や講師依頼をしていかなければならず、なかなか思い通りにいかない部分も沢山ありました。期待と不安を胸に当日を迎えましたが、蓋を開けてみればそれぞれがしっかりと与えられた役割を実行し、全員で連携のとれたイベントにすることができたと思います。このイベントの成功には活動を支えてくださった皆様、クラウドファンディングなど様々な形で協力してくださった方々の力が本当に大きかったと思います。今回のイベントを通してたくさんのことを学び、これからもそれらを活かして、様々な舞台でチャレンジしていきたいです。本当にありがとうございました。

プログラム実施セクション委員 森山優星(高校 3 年)

昨年の 12 月に無事ワンフェスユース 2021 Online が終了しました！様々なトラブルが起こると想定していましたが、何事もなく開催することが出来ました。

私たちイベント運営セクションは主にホームページの Web デザインの考案や Twitter・Instagram での広報、当日の zoom の運営を行いました。

このイベントが行えたのは沢山の参加者・寄付をして頂いた皆さんのおかげです。ありがとうございました！この活動を通して学んだことはとても多く、濃い内容でもありました。この体験を日々の学校生活にも活かしていきます！

イベント運営セクション委員 中谷優仁(高校 1 年)



12月10日クラウドファンディング達成！
【3セッション合同会議】12月12日、12月18日、1月30日

11月20日第7回プログラム実施セッション
【各講師とのプログラム調整、高校生ボランティア募集の調整（イベント運営セッションと連携）、開会式／閉会式企画準備・調整、広報など】

12月 第5回プログラム実施セッション
【企画準備、最終調整】
18日 第6回プログラム実施セッション
【前日準備、最終打ち合わせ】
19日 イベント当日

1月30日最終回プログラム実施セッション
【合同ふりかえり会／次年度引き継ぎ、クラウドファンディング御礼準備】

11月

12月

1月

調査結果のとりまとめ
シンポジウムの企画
コーディネーターとの調整の実施

12月5日提言内容や提言先の確定、
シンポジウムの企画調整
12日 閉会式での提言内容の決定
17日 オンラインシンポジウムのリハーサル

1月30日最終回プログラム実施セッション
【合同ふりかえり会／次年度引き継ぎ、クラウドファンディング御礼準備】

11月1日 ワンフェスユース特設会場の公開
13日 第6回イベント運営セッション
【広報、協賛ロゴ、高校生レポーターについて協議】
19日 第7回イベント運営セッション
【クラウドファンディングに関する広報で掲載する文章の作成】

12月【高校生レポーター、クラウドファンディング、当日の流れ確認】
18日 前日準備、最終打ち合わせ
19日 イベント当日

1月30日最終回イベント運営セッション
【合同ふりかえり会／次年度引き継ぎ、クラウドファンディング御礼準備】

ワンフェスユース OV 会

今年度も昨年度と同様にオンラインにてワンフェスユースが開催されました。ユース提言セッションでの活動では、提言をする相手にどのようにしたら興味をもってもらえるかを創意工夫してきました。また、オンライン開催という状況を逆手に取り、対面ではできない遠くにお住まいの方にワンフェスユース当日のシンポジウムに登壇していただくことができました。ユース提言セッションでの経験から私は、今だからできる事を考えアクションを起こす事の大切さを学びました。当日まで、様々な形で皆様からのご支援があったからこそワンフェスユースが無事終了いたしました。本当にありがとうございました。

ユース提言セッション委員 宮迫怜菜（高校1年）

今年もオンライン開催ということで、昨年度の経験を生かしながらどのようにすればイベントをより良いものにできるかを考え、創意工夫を凝らしました。ワンフェスユース OV 会も高校生のサポート役として、会議に積極的に参加し、高校生と交流を図りました。オンライン会議と対面会議の併用を行うことでより効率的な会議の進行をサポートできたと思います。各セッションのサポーター同士も連携して取り組むことで、さらに信頼関係を得ることができたと感じます。これからもワンフェスユースを通して多くの人と繋がれるよう、また自らも成長し、周りに影響を与えられるように取り組んでいきます。

ワンフェスユース OV 会 下園力良（大学1年）

出展プログラム

ユースアクション報告会

高校生たちが学校で実施した国際協力、フィールドスタディ、プロジェクトラーニングなどの学習内容とその成果について報告会を行いました。本報告会では学校間の連携が促進されることにより、高校生同士がディスカッションや質疑応答を行いました。これにより、他の高校に所属する高校生同士が繋がる場となりました。さらには、高校生だけでなく、社会課題や国際理解教育に熱心な教員同士が切磋琢磨するネットワークができ、継続的な交流や学校間の連携が促進しました。

参加者からの感想「フードロスと廃棄物の 2 つの問題を関連させて解決させていくという方法に興味を持った。」

ユースアクション報告会

Zoom会場 <13:20-14:40>【参加人数】46 名【参加ユースチーム数】4 チーム

○兵庫高等学校：平川さん、坂口さん

「ハロウィン・フードドライブキャンペーン 2021@Hyogo HS」

○立命館宇治高等学校：田中さん、福田さん

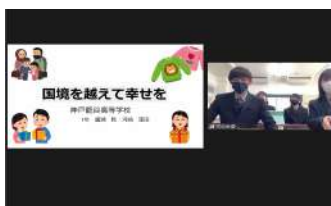
「規格外野菜でフードロスをなくせ」

○立命館宇治高等学校：北岡さん、塩路さん、高橋さん、村瀬さん

「人権問題で国際会議を開こう」

○神戸龍谷高等学校：河野さん、乾さん、廣瀬さん、窪田さん

「国境を越えて幸せを！」



高校生などユース世代によるワークショップや発表会

高校生・大学生などユースチームが学校や国際協力スタッフと連携し、ワークショップの企画やフィールドスタディ、プロジェクトラーニングなど学習した成果について報告会を行いました。報告会では、高校生などユース世代によるディスカッションや質疑応答が行われ、他の高校やユースチームに所属するユース世代が繋がる場となりました。さらには、高校生だけでなく、社会課題や国際理解教育に熱心な教員や国際協力 NGO がつながる場ができ、継続的な交流やネットワークができました。

参加者からの感想「コロナ禍でも行動を起こそうとしている高校生が沢山いることが 1 番印象に残った。」

京都市立高校生による「MY ACTION! 行動にうつす SDGs」報告会

Zoom 会場 <10:40-11:50>【参加人数】81 名【参加ユースチーム数】4 チーム

【企画】京都市教育委員会、独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA 関西）

高校生が集う国際会議！

Zoom 会場<10:40-11:50>【参加人数】25 名【参加ユースチーム数】

【企画】公益社団法人アジア協会アジア友の会

ユネスコ協会 SDGs パスポート体験発表会

Zoom 会場 <10:40-11:50>【参加人数】81 名【参加校数】

【企画】大阪府ユネスコ連絡協議会

高校生とワークショップで考える難民問題

Zoom 会場 <13:20-14:45>【参加人数】24 名【講師】中尾秀一さん（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部）

【主催】特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター、CODE 未来基金

【共催】近畿労働金庫、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会

外務省 NGO 相談員ブース

Zoom 会場 <11:00-15:00>【企画・協力】坂西卓郎さん（公益財団法人 PHD 協会）

島彰宏さん（認定 NPO 法人 テラ・ルネッサンス）、高橋美和子（特定非営利活動法人関西 NGO 協議会）





高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラム

【プログラム協賛】リタワークス株式会社

高校生のための国際協力アクションプラン 2021 発表会（2021 年 12 月 19 日当日開催）

高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラムは、「アイデア探求コース」と「課題発見・実践コース」の2つのコースを設けて、国際協力アクションプランを募集しました。ワンフェスユース 2021 当日は、ファイナリストの15チームが国際協力やSDGsなど、日頃の授業や課外活動で行ってきた取り組みの成果や、地球規模の課題に対する解決策などを発表しました。これまでに、ブラッシュアップのための発表会、コンペティション大会を経て、すでに実際に行動した結果を発表するチームや今後の計画を練り上げた完成度の高い発表会となりました。また、それぞれの国際協力アクションプランに対し、NGO/CSO関係者がアワードを授与しました。

【参加人数】86 名

【アワード審査員】石崎雄一郎（ウータン・森と生活を考える会）、坂西卓郎（公益財団法人 PHD 協会）

山本佳史（一般社団法人ソーシャルギルド）、久保友美（国際協力アクションプラン応援プログラムコーディネーター）

参加者からの感想「同じ高校生がどんな事をどう行動しているか分かるとてもいい機会になった。」



高校生のための国際協力アクションプラン 2021 コンペティション大会（2021 年 12 月 5 日開催）

高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラムの課題発見・実践コースでは、実際に国際協力や多文化共生の実現に向けたアクションプランを遂行するための活動費をかけてコンペティション大会を行いました。ブラッシュアップのための発表会や当日のコンペティション大会のコメンテーターからのアドバイスを受け、都度、それぞれのチームがアクションプランの精度を高めました。より質の高い取り組みとなるよう、参加者同士が切磋琢磨する場となりました。

【コンペティション大会コメンテーター】石崎雄一郎（ウータン・森と生活を考える会）

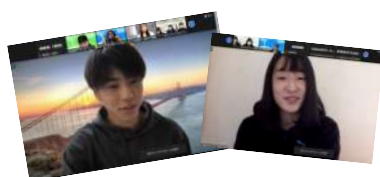
熱田典子（公益社団法人アジア協会アジア友の会）、榎並ゆかり（龍谷大学）、佐藤正隆（リタワークス株式会社）

【助成チーム】

「Colors:せかいこどもフェス」（神戸市立葺合高等学校）

「立宇治陳情アクション:選択的夫婦別姓可決に向けて！！」（立命館宇治高等学校）

「食堂プロジェクト:食堂から世界へ」（立命館宇治高等学校）



国際協力アクションプランブラッシュアップのための発表会 (2021年11月6日)

高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラムの第1次審査通過したチームは、当日の発表会に向けたブラッシュアップを目的としたオンライン企画「ブラッシュアップのための発表会（11月6日）」に参加し、コメンテーターとより良い取り組みにすることを目的とした意見交換をしました。本企画の目的は、①オンラインプレゼンテーションに慣れること、②12月5日のコンペティション大会や12月19日のワンフェスユース当日の発表会に向けて国際協力NGOのスタッフや企業CSR関係者が、コメンテーターとして実務的な観点から実現可能性やプレゼンテーションの方法について助言をし、実際の実務者と交流することを目的としました。

登壇者からの感想「アドバイザーの方や他のグループの人たちから自分たちが持っていなかった視点を得ることができた。」

【ブラッシュアップのため発表会コメンテーター】

江角泰、栗田佳典（認定NPO法人テラ・ルネサンス）、加藤綾乃（特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク）

山本佳史（一般社団法人ソーシャルギルド）、坂西卓郎（公益財団法人PHD協会）

田中十紀恵（認定NPO法人気候ネットワーク）、安里佳世子（大阪府高石高等学校教員）



国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会 (2021年12月5日)

本プログラムは、関西地域以外からもワンフェスユースに関心を寄せていただけの方々を含めた相互理解・交流を促進することを目的に、プレイベント「国際協力スタッフと先生のためのオンライン交流会」を実施しました。参加5団体が、それぞれ実施しているユース向けプログラムについて紹介し、意見交換などをする機会を設けることで、国際理解教育やSDGsの探究学習を実施している学校関係者の方々と一緒に連携の可能性を探りました。またワンフェスユースオンラインについても紹介することで、新たな参加を促すネットワークの構築・広報活動を行いました。オンライン化により地域や国境を超えてプログラムを提供することが可能となるので、これまで届かなかった地域にもワンフェスユースを広く周知し、さらに国際協力や開発教育を推進する団体とのネットワーク形成にこれからも取り組んでいきます。

2021年12月5日（日）14:00-15:30【参加人数】18名

【協力】認定NPO法人アイキャン、公益社団法人アジア協会アジア友の会

認定NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会

公益財団法人大阪YWCA、独立行政法人国際協力機構 関西センター

参加者からの感想

- ・これほど多くの組織の方々と協力して教育を行えることに感動しました。
- ・ぜひ教科指導以外にも関心を持ち、多くご協力を依頼できればと思います。





子どもの権利条約普及啓発キャンペーン

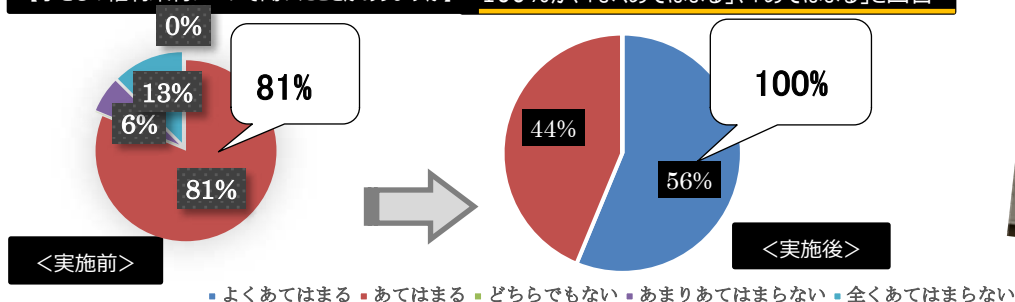


日本社会での子どもの権利条約の認知度は、まだまだ低いと言われています。

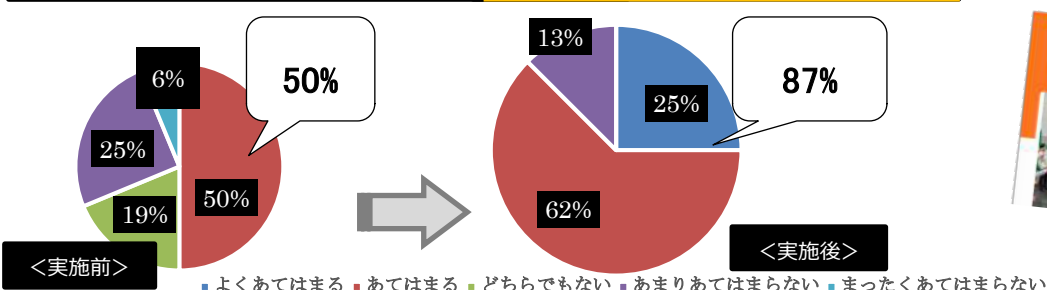
SDGs を定めた文書『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』の冒頭、パラグラフ 8 には、SDGs がめざす世界は、「子供たちに投資し、すべての子どもが暴力及び搾取から解放される世界」とされており、持続可能な社会の実現のためには、子どもたちが世界や地域の現状を主体的に学び、行動することが重要だと考えられます。子どもの権利条約の普及啓発キャンペーンを通して、「日本だけでなく他の国や地域の子どもへの権利についての理解を促したい。」「子どもの権利条約に関心のある高校生など若い世代の仲間が集まる機会をつくりたい。」「このイベントをきっかけに、子どもの権利や自由・公正について訴えなくても、当たり前のように、あらゆる世代の人々がそれを尊重する社会をつくりたい。」という思いへの賛同を集めました。107 万円を超えるご寄付と 130 人を超える賛同者を募ることができました。ワンフェスユースは、高校生などユース世代が主体となって取り組むイベント、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth では、SDGs を宣言するだけでなく、実践し、達成に向けて活動を続けます。

ワンフェスユース実施前と実施後の変化（ワンフェスユース 2021 高校生実行委員会のアンケートより）

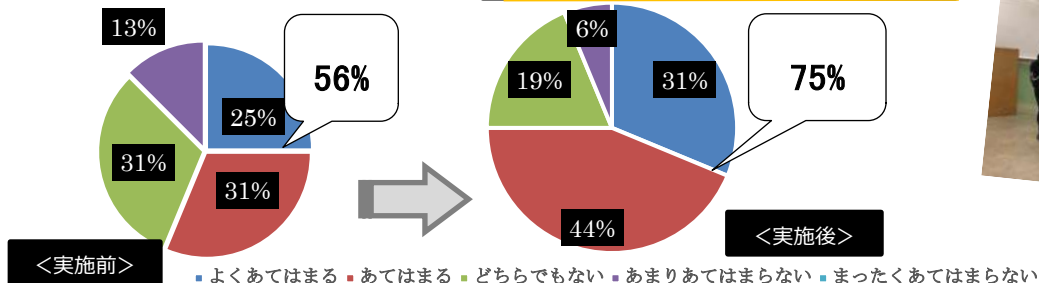
【子どもの権利条約について聞いたことがありますか】 100%が、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答



【子どもの権利条約について内容を理解していますか】 「あてはまる」以上の回答者が 50%から 87%に向上



【自分で国や社会を変えることができると感じますか】 75%以上が「変えることができる」と回答



高校生実行委員からの感想（一部抜粋）

- ・私たちに出来ることは少ないかもしれませんが、という先入観こそ捨てるべきなのではないかと最近気づきました。私たちが十分社会を変えることは可能だと考えています。関心を持つこと、知ること、感傷すること、発信すること。このステップで何かを成し遂げることが出来るのではないかと考えています。
- ・今回のこの活動を通して私たちが変えようとしている原動力をいかそうとてくださる環境があることに感謝し、それを通してより輪が広がっていったのを実感しました。
- ・小さな変化かもしれませんが、ゼロの状態ではありません。どこかで繋がって変化が起こりうるかもしれません。
- ・多くの人に知ってもらえると徐々に社会に影響を持ち始めるのではないかと思います。何も始めないことには始まらないのだと今回強く実感しました。



ご賛同・ご支援・ご協力くださった皆さま（敬称略・順不同）

<協賛企業・団体>

近畿労働金庫、真如苑、リワークス株式会社、日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）、株式会社オルタナティブツアー、「ステハジ」プロジェクト 株式会社 OSG コーポレーション

<助成・寄付団体>

外務省 NGO 事業補助金事業、阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト助成事業、公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）、独立行政法人環境再生保全機構（※ユース提言セクション）、一般財団法人日本国際協力システム、近畿ろうきん・社会貢献預金（笑顔プラス）寄付金

<クラウドファンディングへご支援いただいたみなさま>

【支援者数】75 名 【支援総額】 1,075,488 円（掲載を許可いただいた方のお名前のみ掲載しております）

織田雪江、林久子、林孝彦、榛木恵子、武村桃子、下園力良、栗田真聡、栗田真理子、栗田佳典、井川定一、澤田めぐみ、相澤順也、鈴木千花、中島早苗、菅野諒子、熊亮太郎、八尾高伸、松岡秀紀、林田雅至、チャオム・ソピアリー、江角泰、田尻忠邦、西山良作、岩田千賀子、石崎雄一郎、山岸周平、矢本浩教、青木潤一、中道貞子、仲井友佳子、佐野光平、横田藍子、黒田瑞穂、高橋正紀、村尾佳子、宮崎真名、吉椿雅道、濱上達也、東川貴子、荒木雄大、岡島克樹、安里佳世子、三輪敦子、小吹岳志、小林直樹、山本哲史、熱田典子、窪田勉、高橋美和子、ひがしなり SDGs アンバサダー認証協議会、アズコネクト社会保険労務士事務所



運営体制・委員会構成

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2021～私たちが描く持続可能な社会の未来図～は、ワンフェスユース運営委員会（*1）、（特活）関西 NGO 協議会（事務局）が主催する事業です。運営委員会をはじめとする主催団体が資金の調達・管理、事業運営を担います。高校生実行委員会（*2）は企画の立案・講師の調整、広報の計画・子どもの権利条約普及啓発キャンペーンの実施や当日 WEB 特設会場の制作や当日運営ボランティアとの調整を担当し、参加者に近い視点からイベントの運営を担っています。さらに、ユースアジェンダ策定と提言シンポジウムを開催し、ユース世代の声を届けました。

*1：ワンフェスユース運営委員会は、高校教員・大学教員・NGO 職員・企業・ユース・関西 NGO 協議会職員で構成。

*2：高校生実行委員会は関西地域、関東地域の高等学校より計 18 名の高校生で構成。高校生実行委員会の活動をワンフェスユース OV 会の高校生・大学生がサポート。

<高校生実行委員会>

イベント運営セクション	短田美紘、中谷優仁、萩田和（高校 1 年）河地彩那、千原涼雅、松本夕生子（高校 2 年）
プログラム実施セクション	浅田結音、久戸いつみ（高校 1 年）、星野菜月、橋本真菜（高校 2 年）、南部里緒菜、藤本恵梨奈、森山優星（高校 3 年）
ユース提言セクション	保田竜、宮迫怜菜（高校 1 年）、湯浅妃奈乃（高校 2 年）岸本夏奈、中島優梨子（高校 3 年）
ワンフェスユース OV 会	梅原恋子、岡本慧、黒田瑞穂、下園力良、菅礼実、高居柊平、武村桃子、濱田裕也、樋口真由、平川桃那、横田藍子（*3）

*3：これまでに、ワンフェスユースで高校生実行委員会を経験したことのあるメンバーが、OV (Old Volunteer) としてワンフェスユース OV 会を組織。

ワンフェスユース OV 会の運営サポート及び当日ボランティアコーディネートを公益財団法人大阪 YMCA がサポート。

<運営委員会>

【日程】①7/6 ②9/9 ③11/18 ④12/18 ⑤2/24

【運営委員長】栗田佳典（認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス）

【副運営委員長】窪田勉（兵庫県立兵庫高等学校教員）、鈴木千花（Japan Youth Platform for Sustainability）

【監事】坂西卓郎（公益財団法人 PHD 協会）、田中めぐみ（京都女子中学校・高等学校教員）

【相談役】林田雅至（大阪大学名誉教授）、山田正人

【運営委員所属】大阪 YMCA 国際専門学校、京都女子中学校・高等学校、兵庫県立兵庫高等学校、神戸龍谷中学校高等学校、大阪府立高石高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、社会福祉法人聖ヨハネ学園、公益社団法人アジア協会アジア友の会、公益財団法人大阪 YMCA、認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス、公益財団法人 PHD 協会、一般社団法人ソーシャルギルド、朝日新聞社、ワンフェスユース OV 会、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会

開会式では、2030年のSDGs達成を見据えて、SDGsへの理解がより深まる楽しい時間を提供します！オンラインならではのSDGsクイズやゲームなど、新しい試みを...

開会式では、2030年のSDGs達成を見据えて、SDGsへの理解がより深まる楽しい時間を提供します！オンラインならではのSDGsクイズやゲームなど、新しい試みを...

10:40~11:50



みなさんは、今アフガニスタンで起きていることに関心はありますか。もしかしたら、遠い国の出来事だと思うかもしれませんが、このセッションでは、ジャーナリストの西谷文和...

みなさんは、今アフガニスタンで起きていることに関心はありますか。もしかしたら、遠い国の出来事だと思うかもしれませんが、このセッションでは、ジャーナリストの西谷文和...

「なにかACTIONを起こしたい。」そんな探究の芽をもつ
公募で集まった京都市立高校生たちが、社会で活躍する大
人や学校の枠を超えた仲間達との交流を通して視野を広
げ...

「なにかACTIONを起こしたい。」そんな探究の芽をもつ
公募で集まった京都市立高校生たちが、社会で活躍する大
人や学校の枠を超えた仲間達との交流を通して視野を広
げ...

今年で7回目を迎えたアジアユースサミット（AYS）。
「地域を良くするプロジェクトを創ろう～コロナ禍で私たちができること～」をテーマに、各々が持ち寄った課題の
解...

今年で7回目を迎えたアジアユースサミット（AYS）。
「地域を良くするプロジェクトを創ろう～コロナ禍で私たちができること～」をテーマに、各々が持ち寄った課題の
解...

私達は同バスポートを実施する大阪府内のユネスコスクールです。地域課題の解決を目指して活動しています。今年は、コロナ禍での高校生活についてZOOM交流会を行います。

私達は同バスポートを実施する大阪府内のユネスコスクールです。地域課題の解決を目指して活動しています。今年は、コロナ禍での高校生活についてZOOM交流会を行います。

10:40~11:50

and Planet



The grid contains 16 icons arranged in a 4x4 layout. The icons represent various themes such as water, energy, recycling, and social issues. The themes are: 1. Water (glass of water), 2. Energy (lightning bolt), 3. Recycling (recycling symbol), 4. Social (group of people), 5. Environment (leaf), 6. Economy (bar chart), 7. Education (book), 8. Health (heart), 9. Culture (globe), 10. Technology (gears), 11. Nature (tree), 12. Industry (factory), 13. Agriculture (tractor), 14. Transportation (car), 15. Communication (speech bubble), 16. Governance (gears).

新型コロナウイルス感染症によって、私たちの日常は大きく変わりました。みんながマスクを着けることが、当たり前になりました。それなら、みんながSDGsに関心を持ち、...

新型コロナウイルス感染症によって、私たちの日常は大きく変わりました。みんながマスクを着けることが、当たり前になりました。それなら、みんながSDGsに関心を持ち、...

12:00~13:10



高校生のための国際協力アクションプラン応援プログラム発表会

第一次審査、ブラッシュアップのための発表会を経て、ファイナリストに選出された15の高校生チームが発表します。ユースが考えるグローバルな課題と解決方法、SDGsの...

11:00~15:00



外務省NGO相談員相談ブース

外務省NGO相談員による相談対応を行います！国際協力に興味がある方、ボランティア活動を始めたい方、進路やキャリアについて相談したい方、ぜひご越しください。

13:20~14:40



海洋汚染と技術革新の繋がりを知ろう！

技術革新と海洋汚染...この二つを見ても、何か共通点があるように見えませんか？でも実は、この二つには大きなつながりがあるんです！皆さんと一緒に、技術革新と海...

14:50~15:50



閉会式

一日のみなさんのそれぞれの思いや学びをさらに深め、広げていけるようにオンラインですがクイズや意見共有をして振り返ります！そして、最後はみんなですべてのみなさん...

高校生実行委員会

イベント運営セッション

Webデザインの考案や広報、クラウドファンディングなどを主にワンフェスを盛り上げるように活動しています。ぜひ、私たちが作ったWeb特設会場をご覧ください。

ユース提言セッション

「環境」と「貧困」の2つのトピックを扱います。環境では、海洋プラスチックについて私たちが改善のためにできることを考えます。貧困の観点から、アフガニスタンに注目します。ユース提言セッションとして関係各所へ提言した内容を報告します。

プログラム実施セッション

新型コロナウイルス感染症によってより一層身近になった「海外の課題」、コロナ禍を境から今こそ見つけるべき「当たり前を変える力」、「技術革新の裏にある海洋汚染」を3つのテーマを軸に国際課題について考えます。

協力

(公財)大阪YMCA / (一社)ソーシャルギルド / ワンフェスユースOV会 /
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 高校生実行委員会

後援

外務省 / 文部科学省 / (独)国際協力機構 関西センター (JICA関西) / 大阪府教育委員会 / ESD活動支援センター / 近畿地方ESD活動支援センター / (公財)大阪府国際交流財団 / (特活)開発教育協会 (DEAR) / 朝日新聞社 / 関西SDGsプラットフォーム

デザイン: 前田慎也 (パーキーパーット・デザインズ)

助成

外務省NGO事業補助金 / 阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト助成事業 / カメイ社会教育振興財団 (仙台市) / (独)環境再生保全機構 (ユース提言セッション) / (一財)日本国際協力システム

指定寄付

近畿ろうきん社会貢献預金（笑顔プラス）

協賛



[日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）](#)

[株式会社オルタナティブツアー](#)

[「ステハジ」プロジェクト](#) [株式会社OSGコーポレーション](#)

子どもの権利条約啓発キャンペーンとは？

「子どもの権利条約」の理解向上と子どもの権利を尊重した「高校生による日本最大級の国際協力/SDGsイベント」を開催するためのクラウドファンディングです。

生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利で構成された「子どもの権利条約」は、日本社会においてまだまだ認知が低いとされています。

私たちはこのキャンペーンを通じて、あらゆる世代の人々が、子どもの権利条約について学び、まずは「意識を変える」ことから始め、ともに持続可能な未来図を描き、それに共感する仲間、そしてイベントの開催にあたって必要不可欠な資金を集めてまいります。

目標金額

1,000,000円

期間：2021年11月5日（金）～
11月20日「世界こどもの日」と
12月10日「世界人権デー」

までに、賛同いただく個人団体を100名・団体集めます！

2021年11月10日（日）18時（当日）まで目標金額に達し、目標のクラウドファンディングが完了となります。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。
引き続き賛同を募っていきますので、引き続きご協力ください。
賛同いただいた個人、団体の皆様には、子どもの権利条約
2021年アクション宣言書・団体の皆様には、子どもの権利条約
（掲載を希望される方のみ）

本当は行きたいのに、あなたのためだからと親が習い事を強要し、
自分の意見も聞いてもらえない。

新型コロナウイルスの影響で学校行事ができず、
もう決まったことだからと先生に自分たちの想いを伝えることもできなかった。

大学では化粧や染髪が出来るのに高校では
高校生らしい身だしなみを強いられて出来ない。

世界には2018～2020年の間、100万人の子どもが難民として生まれている。

生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利で構成された子どもの権利条約は、日本社会においてまだまだ認知が低いとされています。そこで、高校生が主体となって取り組むイベント、ワン・ワールド・フェスティバル for Youthを通して、
「もっと多くの方に子どもの権利条約を理解してもらいたい」
「日本だけでなく他の国や地域の子どもたちの権利についての理解も促進していきたい」
「子どもの権利条約普及を促進するユースの育成とさらなる活動への参画機会の提供したい」
「当イベントを契機に、子どもの権利を顧みなくても、自由や公正を訴えなくても、当たり前のように、あらゆる世代の人々が子どもの権利を尊重し、自由で公正な社会を作りたい。」
と考えています。

作成日：2022.2

特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会／Kansai NGO Council

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30

TEL 06-6377-5144 FAX 06-6377-5148

E-mail: knc@kansaingo.net

URL: <https://owf-youth.com>